

## 第45回 知財問題研究部会（IP 部会）

テーマ『会社のためになる特許とは～特許の役割を皆さんと一緒に考えてみましょう！～』

日時 2014年3月7日（金） 13:30～16:30

場所 福祉交流センター 22会議室

今回はグループ討議を通して「特許の役割を皆さんと一緒に考えてみましょう！」という試みであり、グループ討議の前に、第42回IP部会資料（「中小企業の成功事例にみる～会社を元気にする知的財産の使い方～」土生哲也弁理士）を振り返り、事例再確認を行い、討議のベクトル合わせを行った。

土生弁理士による「知的財産マネジメントの全体像」には、  
形をつける として、①見える化 ②財産化 ③活性化  
外部にはたらかせる として、④コントロール ⑤交渉力 ⑥伝える ⑦つなぐ ⑧保障する  
の「知的財産活動の8つのはたらき」が示されている。

グループ討議は4グループに分かれ、討議終了後、討議結果を発表し、他グループと意見交換を行った。各グループの発表の概要は下記の通りです。

### <第1グループ>

- （1）事業戦略・技術戦略に基づく知財戦略であるべきである。
- （2）知財活動は、社内教育や労務管理と結びついている。

### <第2グループ>

土生弁理士による「知的財産マネジメントの全体像 ①～⑧」中の、

- ①他との違いを‘見える化’する
  - ④ライバル企業の動きをコントロールする
  - ⑤取引先との交渉力を強化する
  - ⑥顧客にオリジナリティを伝える
  - ⑦パートナーとの関係をつなぐ
- について、討議を行った。

### <第3グループ>

「液晶テレビで、日本企業が厳しい事態に陥ってしまったのは何故？」について討議し、(1)～(2)に意見集約された。

- （1）特許には世界戦略が必要である。
- （2）ノウハウの流出防止を秘密保持契約だけで制約することは難しく、愛社精神をはぐくむことや日本人技術者の転職防止策も必要である。

### <第4グループ>

土生弁理士による「知的財産マネジメントの全体像」中の、「⑧顧客の安心を保障する」を討議のテーマとして取り上げた。その後、

- （1）液晶テレビで、日本企業が厳しい事態に陥ってしまったのは何故？
- （2）スマホ、アップルVSサムソン！何故そこまで戦うの？
- （3）日本のハイブリッドカー特許戦略は成功しているのか？

について、座談会形式で討議し、「特許はツールである。ノウハウの流出防止には、技術者の再雇用が必要である。」という結論を得た。

参加者の企業規模、業種、実務経験年数が異なるため、同じ土俵で議論するには難しいテーマであったが、異業種交流としては有意義であった。

～IP 部会委員代表～